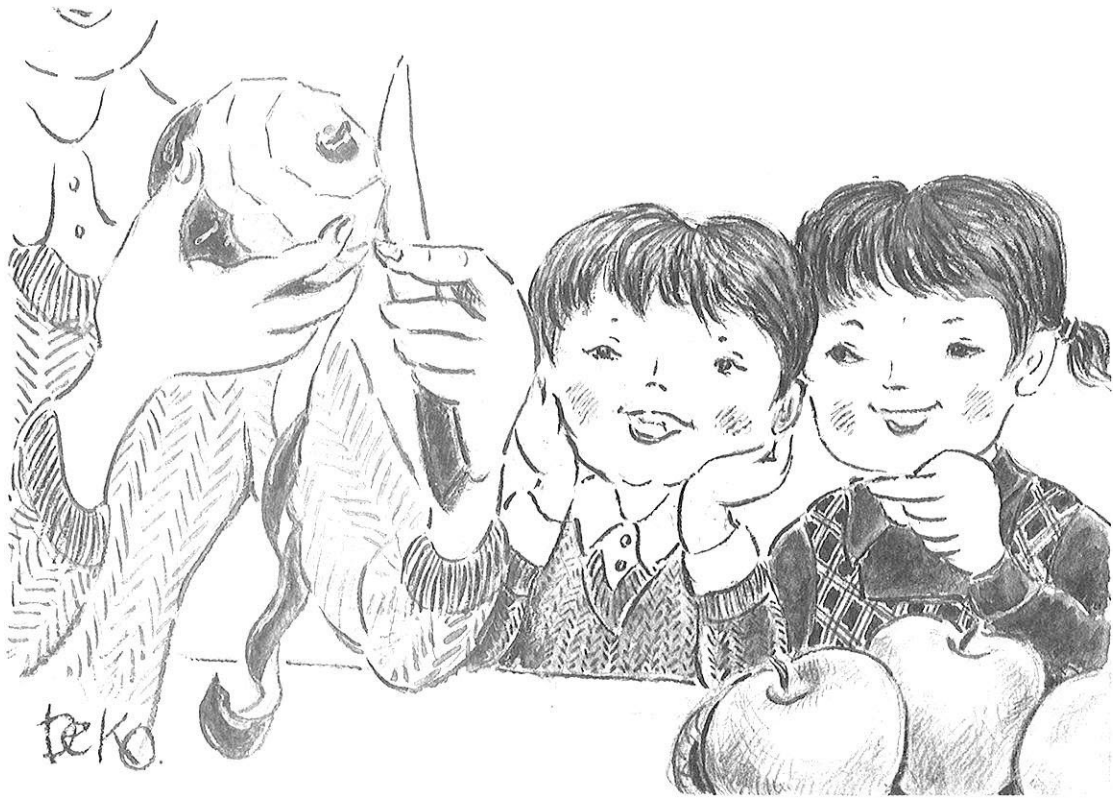


# 光の子



No.127 2007.12.25

- 今年の聖句 人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。(マタイによる福音書16:26)



「もっと長〜くして」

挿絵・中島英子

「初写真」

追ひ越してゆく誰も彼も襟立てて

冬の灯を寄せて開けるたなごころ

潮騒を募らせてる宝船

エッフェル塔収まり切れず初写真

枯蔦のがんじがらめに館古る

噴水の背丈の揃ふ寒さかな

騙し絵の窓にも春のきざしをり

俳人 黛 まどか



# 暗い闇の中で

— ルカによる福音書 2章1~7節 —

聖学院大学大学チャプレン 阿部洋治

1. 「クリスマスおめでとう」「メリー・クリスマス」。私たちはどのような思いを込めてこうした挨拶をかわしているのでしょうか。世の中の動きは、十二月になると、こうしたことを深く問うこともなくクリスマス・ムードに流れて行きます。しかし、幼い子どもたちには、サンタクロースにしろ、クリスマス・プレゼントやケーキにしろ、家族でのクリスマスの良き思い出を持たせたいものがあります。

それにしても、大人たちの心には、本当はそんなふうに陽気で楽しくはしてられない暗い闇が覆っていることもあるのではないのでしょうか。皆が楽しく陽気にはしゃいでいる中、暗い闇が押し寄せ、惨めになって行くのを押しさえきれずにいる自分を見出している人々もいるのではないのでしょうか。「何がクリスマスか。自分は今そんな気分には浸ってはいられないのに!!」実は、クリスマスは、そうした本当の自分に向き合う時なのです。

2. 「そのころ、全世界の人口調査をせよとの勅令が、皇帝アウグストから出た(一節)。聖書は、主イエスのお生まれについて語ろうとしつつ、

時代の闇について目を向けます。「これは最初の人口調査であった(二節)」という説明は、この闇が一時的なものではなく永続的なものであったことを示唆しております。「人々はみな登録するために、それぞれ自分の町へ帰って行った(三節)」。これは、里帰りをするという悠長なものではありません。自分のすべてについて調べられ、それに基づいて重い税金を課せられます。しかも、この人口調査のために何日もの旅を余儀なくされました。その間、仕事を休まなければなりません。旅のための費用も負担しなければなりません。人口調査は、住民にとって大変な負担であったのです。人口調査に反対する暴動も起こったほどでありました(使徒行伝5・31)。

3. 「ヨセフもダビデの家系であり、またその血統であったので、ガリラヤの町ナザレを出て、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った(四節)。出産を控えたマリヤを連れて旅に出るということは、ヨセフにとっても辛いことであったか。本当なら、時期を変更してもらいたい。しかし、そうした個人的な事情は聞いてもらえないのです。「すでに身重になっていたいいなづ

けの妻マリヤと共に(五節)」というのは、この人口調査がいかに過酷なものであったかを示唆しております。どんな理由であれ事情は酌量されないのです。マリヤにとってはじめての出産でありました。身体的にも精神的にも本当に耐え難い不安と苦しみであったに違いありません。その上、適当な宿屋が見つからず、馬小屋での滞在となりました。人口調査という暗い陰は容赦なく乙女マリヤを覆ったのです。

4. しかし、神の約束は、この世の権力者の暗い陰が容赦なく人々を覆うそのまっただ中で成就されるのです。私たちの目には現実の歴史の暗さしか見えないかも知れません。しかし、それにもかかわらず、そのまっただ中で神はご自身の御業をお進めになるのです。自分の置かれた現実を思う時、クリスマスをお祝いしてなどいられないということもあるかも知れません。しかし、そうした中で、この主イエスの誕生の出来事は、私たちの目を現実を超えたところへと引き上げてくれるのです。

このクリスマスに私たちの目を神の栄光へと開かれることを祈るものです。

## エッセイ

### 万年筆のこと

「今どき万年筆を使っているの?」と言われることがある。「ああそうだよ。」と答えれば「ボールペンが良いよ、ボールペンが。」とくる。「第一手軽だし、安いしね。」とのたまう。そう言われてみるとその通りである。ボールペンなら、机のあたりに何本か散らかっていたりして、余り気にしないで使える。

しかし私は、やっぱり、何十年もの間、ずっと万年筆を使い続けている。初めて万年筆を持ったのは、私が中学校へ入った時であった。中学校といっても、小学校の一部を借りてのスタートだったので、中学生になるんだという、大した感慨もなかった。そんな時、入学を祝って、すぐ上の兄が万年筆を買ってくれたのである。少し小型で、軸やキャップにやわらかいブルーグレーの模様が付いていた。私はこのパイロットがすっかり気に入って、筆入れに入れないで、服の左胸のポケットにさして歩いた。これでやっと、中学生の気分になれたものである。授業中には、余り使わないようにし

彫刻家 中島 陸雄

ていた。つい乱暴に文字を書いたりするので、ペン先を傷めてしまう恐れがあるからである。

遠足のあった日、帰ってきてから、万年筆を使って日記を書いた。その後大切な万年筆を使って、毎日毎日、ていねいに文字を連ねていく習慣がついていった。

そうなる、相当に使い慣れてきて、余り万年筆そのものを意識する必要がなくなってきた。

その頃、クラスの友だちの間で、いろいろな品物を家から持ってきて、売り買ひするというのが流行しだした。友だちの一人が私の大切な万年筆に目をつけた。「百円で売ってくんねか。」というのである。「やだよ。」私は当然断った。「そんなじゃあ百五十円でよかんべ。」と追いうちをかけてくる。しかし、大切な愛用の万年筆を売るわけにはいかない。そこで、私としては珍しく、毅然としてはねつけた。

そんなことをしているうちに、中学校生活は終わり、高等学校へ入った。高等学校へ行ってみると、ものすごく優秀な連中が、いっぱいいた。中には高等学校で学ぶべき英語だか数学だかの教科書を、中学三年までに終わらしてしまつたというものもいて、井の中の蛙は、初めて大海をのぞき見て、びっくりしてしまつた。

そうなる、中学時代には余りやらなかった予習や復習を、毎日やらなければ追いついて行けない。特に英語と数学はひどいものだった。英語なんか、他の級友とはスタートの時点で大差がついているので、よく読んで書いた。単語カードも、やたらに作って、くり返し見て頭にプチ込んだ。トラノオキも大いに活用した。

愛用の万年筆も、この頃、最も多く使われた。インクがすぐに減つてしまふ。そこで、スポイトを使ってインクを補充するのもどかしくらいであった。しかし、勉強のあいだの、万年筆にかかわる小さな作業は、決して嫌でなく、むしろ楽しくもあつたのである。

高校生になつたとき、私には、兄や姉たちから順に使われ拂い下げられた立ち机が与えられた。それまでは、畳の上に座つて読み書きをするすわり机を使つていたのである。

今度は立ち机となると、姿勢は楽なのだが冬は足が寒くてかわない。そこで、机の下に小さな火鉢を置いて、

それに足をかけて暖を取るのである。ところが、或る寒い夜、火鉢を足元に置いていつものように勉強していたところ、大切な、大切な万年筆を、取り落としてしまつたのである。良く燃えている炭火の真ん中に、万年筆が落ちてしまつた。慌てて拾おうとしたが無理であった。

やつこの思いで火の中から灰の部分に押しやってみたが、もう、万年筆の軸のあたりがプスプスと音をたてて燃えてしまつて、使えなくなつてしまつたのである。

あんなに大事にしていたのに。あんなに使い慣れていたのに。本当に残念であった。

その後私は、いろいろな万年筆を使つてきた。中国製の「英雄」だとか、ギャップの頭に白い雪を置く「モンブラン」。或いは独特な口ばしのようなキャップの「ベリカン」だとか、弓の矢の形をもつ「パーカー」など。それぞれ、大切に、愛情をもって使つてきたのだが、あの、火の中へ落ちてしまつた最初のパイロット万年筆のことを、忘れることができない。

※こんなことを家内に話してみると、彼女の曰ク「今どき万年筆?今どきボールペン?今は、世の中全部パソコンの時代よ!!」だつて。

朝三時頃起床、小一時間膝強化のストレッチ体操、四時五分すぎからNHKラジオ深夜便「このころの時代」を聴き、五時頃から部屋のごみ捨て、洗顔等、場合によっては予習、六時十五分Kさん、Wさんと玄関先

いに。説明すると次のようなことになる。私は山形大学学長を退いた後、国際協力機構(JICA)シニア海外ボランティアに参加しようと思ひ、その準備をしてきた(少なくとも、そのつもりであった)。しかし、私の考えることはいつも甘く、ことはそんなに簡単に進まないことを思い知らされたのは、厳しい健康診断をなんとかクリアして、JICAから分厚い書類が送られてきたときである。シニアボランティアになるためには、訓練所での訓練が必要であり、それを無事修了してはじめてボランティアになるのである。それまではあくまでボランティアの候補者だというのである。そして私が派遣される予定のパラグアイの使用言語、スペイン語の訓練は二〇時間であると書類に書かれてある。そして、前記のような私の訓練生活が始まったのである。

「訓練」であり、決して「研修」ではない。説明しよう。候補者の所内での生活には厳しい規則があり、それを破ったりする不届きな者は一人も居ない。講義を受けるときはセピロを着て、ネクタイを締めなければならず、スリッパで講義に出席したりしてはいけない。所内は禁酒である。訓練所の外での飲酒は禁止されていないが、酒を飲めるところまではタクシーで二〇〇円もかかるので、週末以外に酒を飲みに出かける者は誰もいない。最初、私はここまでしなくてもと思ったが、今はそうは思っていない。要するに、青年が発展途上国に一人で出かけていって、或る意味ではわが国の名前を背負って活動することになるわけで、そのためには、それ相応の完成した一人の人間像が求められることになる。そんなに容易に一人の人間が完成するはずもないが、少なくとも形の上から、引き締まった、分別のある一人の人間への歩みの導入口を用意してやる必要があるということだと思ふ。

た。楽しい絵がそのことを伝えてくれます。おばあさんのために役立つ喜び、大変なことを成し遂げた満足。おばあさんは「すばらしいクリスマスだわ」といい、お互いのプレゼントを見せ合っています。かわいいカイサの姿にクリスマスの喜びがあふれていました。クリスマスはイエスキリストの誕生を心から喜びあうこと、イエスキリストのご生涯を通して私たちに希望と力を与えて下さったことの喜びを分かち合う機会だとも思います。ことしも喜びに満ちたクリスマスを分かち合いたい、しみじみ思います。



「よろこびの木」徳間書店  
「びちびちカイサとクリスマスのひみつ」偕成社  
共にアストリッドリンドグリーン著

### 学者もどきのつぶやき ⑩ ただいま訓練中(その一)

山形大学 仙道 富士郎  
前学長

六時より夕食、就寝時間は日によってバラバラ。  
これがこの一ヶ月の日曜を除いた私の毎日である。  
このように申し上げても、皆様には何のことかご理解いただけま

い。説明すると次のようなことになる。私は山形大学学長を退いた後、国際協力機構(JICA)シニア海外ボランティアに参加しようと思ひ、その準備をしてきた(少なくとも、そのつもりであった)。しかし、私の考えることはいつも甘く、ことはそんなに簡単に進まないことを思い知らされたのは、厳しい健康診断をなんとかクリアして、JICAから分厚い書類が送られてきたときである。シニアボランティアになるためには、訓練所での訓練が必要であり、それを無事修了してはじめてボランティアになるのである。それまではあくまでボランティアの候補者だというのである。そして私が派遣される予定のパラグアイの使用言語、スペイン語の訓練は二〇時間であると書類に書かれてある。そして、前記のような私の訓練生活が始まったのである。

また、安全神話が少し崩れかけてきているわが国ではあるが、間違いなく世界で最も治安の良い国



であるわが国から、他国に出かけていく場合、それ相応の安全に関する自己管理が必要なわけで、そのためにも自分を律する術を学ばなければなるまい。  
どうも困ったもので、私自身が訓練生のはずなのに、ご託宣を述べている始末。いずれにしても、私自身はここでの訓練生活を身の引き締まる思いで、しかし、大きな喜びを持って過ごしている。  
(以下次号)

### クリスマスの物語

日本キリスト教団 大高 禎子  
東大宮教会

二ヶ月に一回ぐらい、自転車で二十分ぐらいの図書館に行くのが最近の私の楽しみになりました。肩のこらない本を選んで、コーナーにある大きなテーブルを囲む椅子に座ります。小さな図書館なので、小さな子どもたちが、本を選んで見たり、「アンパンマン、アンパンマン」とうれしそうに声も聞こえます。童心にかえって、本を読むのは至福の時です。

す。マリーンも物乞いをしなければなりません。物乞いにまわっていたある日、牧師館で偶然耳にした美しい言葉。マリーンはそれを中心のよりどころにして、つらい暮らしを耐えていました。でも、言葉だけでは満たされなくなつて、やがて。北欧の春の夜におこつた心にしみるファンタジーでした。美しいものへの強いあこがれとやさしい心のおこしたマリーンの不思議な物語は、クリスマスの言葉こそでないけれど、クリスマスに読むのにふさわしい物語だと思ひました。スウェーデンの昔の福祉の様子もかいまみえて、興味深い本でした。

間のお話です。子どもにかえって楽しめました。  
カイサはおばあさんと暮らしている七才の女の子。クリスマスまであと一週間という時に、おばあさんがころんで足をけがして動けなくなつてしまいました。クリスマスのごちそうは誰がつくるのでしょうか。クリスマスのプレゼントはどうしましょう。大そうじは？クリスマス市のにはキャンデーを売るはずでした。小さいからわりと思つているおばあさんですが、カイサは「あたしがやるわ。」「クリスマスはいつものようにいわずにしてみせるわ」といいます。カイサの奮闘ぶりが楽しい絵に描かれていて、その一生懸命さに応援したくなります。「カイサやあんたがいてくれて助かるわ。ありがたいね。」おばあさんはいいました。市ではカイサのキャンデー売りは大人気。計算のまだできないカイサにはちよつとした工夫もありました。ベッドのおばあさんが考えてくれたからです。おばあさんはカイサへのプレゼントもカイサに知られずに買えました。それがクリスマスのおひみつです。カイサとおばあさんのクリスマス・イブはすばらしいものでし

参考

「よろこびの木」徳間書店  
「びちびちカイサとクリスマスのひみつ」偕成社  
共にアストリッドリンドグリーン著

# クリスマス

クリスマスおめでとうございませう。クリスマスという日がどういう日なのか、ご存じですか？四年生の頃は、サンタクロースが来てくれてプレゼントをまくら元に置いていてくれる日だと考えていました。五年生になって初めて本当のクリスマスを知ることになり

## 本当のプレゼント

中二 浩伸



クリスマス後： 高一 龍治  
僕はクリスマスも楽しみだけですが、その後の正月の方が楽しみです。正月には自分の家に帰ります。帰っても特別することはないので、おせちを食べたり、DVDを見たり、弟や妹と遊んだり、好き放題やっていただけです。でもそんな正月がとても楽しく、好きなのです。  
しかし大変なことが一つ、それは、もらったお年玉の遣い途を選ぶことです。さあ、今年は何に遣おうか：年初めの大きな悩み事です。

この時期の悩み 高三 有紀  
クリスマスおめでとうございませう。今年がここで迎える最後のクリスマスだということを、少し驚きながらも楽しみにしています。わたしは中学の終わりにこの光の子どもの家に来たので、まだ二回しかクリスマス会を経験していません。今年が三回目、目一杯楽しみたいと思います。  
高校生になって少しずつ形作られてきた自立への意識は、進学という夢から就職へと変わり、仕事を選ぶ難しさと内定をもらう大変さに押しつぶされそうです。まわりの友だちは一人、二人と内定をもらい、進路が決まってから迎えるクリスマスなのに、わたしはまだ決まっています。やりたい仕事は決まっていますが、どこでそ

クリスマス風景 高二 省二  
クリスマスおめでとうございませう。クリスマスはイエス様が生まれた日です。イエス様が生まれたのは暗くて寒い馬小屋の中でした。イルミネーションで飾られた温かい家の中ではありません。そしてイエス様は十字架の上で息絶えしました。医療設備の整った病院の個室ではありません。クリスマスのお祝いをするときには、そのことを忘れてはいけなと思います。  
ぼくは大学進学を目指しているのですが、毎日受験勉強をしています。寒くなると蚊がいません。蚊は本当に気になります。一匹一匹、やつつけた蚊をティッシュに並べて達成感を味わっています。  
メリークリスマス。クリスマスは正しく迎えましょう。なんつって。

# おめでとう

クリスマスになったら 小四 里奈  
クリスマスになったら楽しいこといっぱいあるので、早くクリスマスになってほしいです。  
アドベントカレンダーは丘実と二人で一つだから、毎日交かんで

クリスマスは大変？ 小六 知香  
クリスマスおめでとうございませう。みなさんは、今年のクリスマスどんなふうに過ごしたいですか？私は去年ページェントで聖歌隊をやったので、今年も聖歌隊をやりたいです。聖歌隊ではハンドベルもやります。ハンドベルには自信があります。中学生と高校生は何度もやっているのでもやっぱり上手ですが、私も負けていません。それと、ケンカをしないクリスマスにしたいです。  
みなさんは、サンタさんはいると思いませんか？私はいると思いますが、でも世界中の子どもたちにプレゼントを配るのは大変です。そこで本で調べたところ、実はサンタさんは世界中にいっぱいいるんです。だからみなさんのところにも、きっとサンタさんはやってくると思います。サンタさんに来てほしい人は、お祈りをして待ってみてください。  
みなさんに、楽しいクリスマスが来ますように。

今年を楽しむ 高一 育実  
今年はおめでとうで迎える十一回目のクリスマスです。去年は受験があったので、あまりクリスマスを楽しむことができませんでした。高校生として初めて迎えるクリスマス、思う存分楽しみたいと思います。  
そしてもう一つ、イエス・キリストがお生まれになったことを

サンタさんはサポーター？ 小四 達貴  
クリスマスはサンタクロースが来てプレゼントをくれるので楽しみです。ほしい物はいっぱいありますが、ゲームとかはもらえないと思います。サンタクロースがゲームをくれたらいいな、ぼくのまわりにはいません。でもゲームはほしいです。  
今年はお和レッズがアジアで一番になりました。レッズはやっぱり強いです。レッズのおうえんをしていてよかったです。でも小野がいなくなるのはさびしいです。  
サンタクロースも赤いので、レッズサポーターかな？



チヨコを食べます。二十四日にサンタクロースが来ますが、本当にサンタクロースがいるのかなと思っていました。だけど去年サンタさんが私のへやに来てプレゼントをわたして、まり子さんがその日の夜にしゅくしや(宿舎)に言ったら、空から紙が落ちてきて、そこにはサンタさんから「里奈へ」と書いてありました。もう一枚は「丘実へ」と書いてありました。だからサンタさんは本当にいると思います。  
今年ほしい物は、おかし、シール、メモ帳、えんぴつ、サッカーボールなどいろいろあります。でも本当にほしい物は二つあって、一つは〇〇ちゃんと同じメモ帳で、もう一つはサッカーボールです。  
でも、おりにしていません。サンタさんが来ないので、おりにして待っています。  
今年はおめでとうで迎える十一回目のクリスマスです。去年は受験があったので、あまりクリスマスを楽しむことができませんでした。高校生として初めて迎えるクリスマス、思う存分楽しみたいと思います。  
そしてもう一つ、イエス・キリストがお生まれになったことを

# プロリズム

河のほとり

倉澤家

クリスマスおめでとうございませう。今年も子どもたちと無事クリスマスを迎えられたことをうれしく思っています。

さて、十一月のある土曜日、成黎の通う東小学校では「教育の日」の行事が行われました。毎年、音楽会などが催され親子で楽しむことのできる行事で、今年は千葉大学の学生を招いて「ダブルダッチ」が行われました。「ダブルダッチ」とは、二人以上で二本の縄を使って行う縄跳びです（ヨーグルトのCMでやっていました！）と言えればわかりでしょう。そのダブルダッチに挑戦できるというメンバーの一人に、成黎も選ばれていました。しかも、やり方を教えてもらう為に誰よりも先に、成黎が一人で全校児童と父兄達の前で跳ぶことになりました。

成黎にとっては、生まれて初めてのことに、普通の縄跳びだって上手に跳べないのに、ああ、恥をかかせてしまう。私は、

成黎が代表になったことを否定的に捉えていたのです。

そんな私の思いなど知らずに、成黎は学生二人のまわす二本の縄の中へ……。なんと！成黎は一度で縄の中へスムーズに入り、三十回近く跳ぶことができたのです。もちろん、皆からは拍手喝采！

何故、私は初めから無理と決めていたのでしょうか。何故、彼ならできる、大丈夫と思ってあげられなかったのでしょうか。このことを通して私は、彼から大きなメッセージをもらいました。「倉ちゃん、僕を信じて、僕だってできるんだ。」というメッセージを。

倉澤 智子



子どもたちの季節

仙道家

早いものでもう十二月となり、夏の間の猛暑が嘘のように、光の子どもたちの家の大樑が残りの落ち葉を庭に積もらせ、枝だけを残してそびえ立っています。メリークリスマス。

仙道家の子どもたちに「一年の内での季節が一番好き？」と聞くと、ほとんどの子が「んー、夏もいいけど、冬が一番好き。クリスマスだし、お正月もあるし。」と答えます。そんな子どもたちが一番好きな季節を迎えるこの時期は、楽しくもありべらぼうに忙しくもあります。

光の子ども家ではクリスマスイブに一堂に会して、互いに普段言わないようなかしまった感謝の言葉や、心のこもったメッセージ、思いの丈を言葉にして順番に発表していく「キャンドルサービス」があります。子どもたちは「恥ずかしい」とか「またかー」なんて言いながらも、毎年楽しみにしています。

光の中で

佐藤家

早いもので今年も十一月です。大人にとってはまだクリスマスは遠いものですが、子どもにとっては「もうすぐ」のようです。今年もプレゼントの話が先行するかと思いきや、話題に上ったのはペーレントの配役のことでした。『ジェントの配役のことでした。』が、いい、は絶対嫌だ、など各自の思いが飛び交いました。そんな中、高校二年生の男児が「与えられた配役をきちんとやるんだ！」と言ったのです。真面目に言っている感じではなかったのですが、その言葉がとっさに出た事に私は驚きました。普段の食卓でも、自分分は騒いでおきながら、最もらしい注意を他の子どもにすることはあります。ですがこの時、他の子のからかいが有りながらも、昨年ヨセフを堂々と真面目に演じていた彼の姿を思いだし、本気で言っているのかも、と思いました。後々考えても彼のこの真面目さは、大切にしたいと思えます。

田口 貴子

原田家日記



木枯らしが吹き、庭で行われる焚火に幸せを感じる季節となりました。皆様がいかにお過ごしでしょうか。

十月十二日、原田家に五歳の由里ちゃんがやってきました。天使の衣装がとっても似合いそうな、笑顔のかわいい女の子です。その笑顔を見るたびに、今からペーレントが楽しみ：と、私はひそかに思っています。

由里と担当の高野保育士にとっては初めての、岳姉弟と陸にとっては二度目の、ここでのクリスマスがもうすぐやってきます。三年前、初めてここでクリスマスを迎え、子どもたちから色々なことを教えてもらっていた私も、いつの間にか教える立場になりました。ケヤキの木がイルミネーションで輝き、毎週行うアドベント、いつも言えないことだった

鈴木 晶子

伝えられるキャンドルサービス、子どもたちみんなが主役のペーレント、盛大に祝う祝会、そしてサンタさん……。毎年「忙しくてかなわない!!」と思いつつも、私はここで迎えるクリスマスが大好きです。今、この「光の子」を手にかけている皆様にも、素敵なクリスマスが訪れますように……。



季節のおとずれ

竹花家

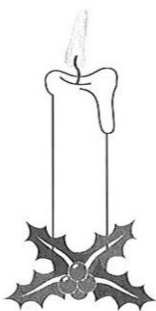
十一月も後半になると、子どもたちは今年のクリスマスをどのようなものにするか色々と思いつきます。先日夕食時の会話の中でもクリスマスに行う降誕劇の配役の話をしたアドベントの催し物の計画をしたり子どもたち心の中では日々を追うごとにクリスマスモードになっていきます。

昨年のクリスマス、要はサンタクロースからターシャ・ジュエダの「こ

夕食が終わり、夜に包まれた大きな部屋に灯されるロウソクの仄暗い明かりの中、ひとり一人メッセージを読んでいきます。途中には讃美歌や聖句が織り込まれ、イエス・キリスト誕生前夜の普段とは違う雰囲気を感じた子どもたちも感じています。メッセージが次々と読まれていく間に、小さい子たちは夢の中。担当者が代読します。それぞれの普段聞けないメッセージを大事に胸の中に仕舞い込んで、最後にみんなで黙祷を捧げます。

寒い冬にお生まれになった御子イエス・キリストは、神さまから与えられたメッセージ、御言（みことば）そのものです。イエス様の誕生前夜、わたしたちは互いにメッセージを、大切に大切に伝え合おうのです。子どもたちの好きな冬を、いつまでも大事にしたいと思えます。

鈴木 洋一



ねこのクリスマス」の絵本をいただきました。その中に主人公の兄弟が馬小屋かざりに火を灯す場面が気に入り「僕も馬小屋かざり欲しいよ。来年のプレゼントは馬小屋かざりがいいなあ。」と要が言う姉の美也子が「サンタのプレゼントだったら来年は馬小屋かざりでクリスマスを迎えたいなあ」など年末年始はしばらくこの話題が続きました。時が過ぎ十一月のある日要がピアノを習っている近所の教会でクリスマス用品のカatalogで馬小屋かざりを見つけ昨年が再び呼び起こされ「僕のお小遣いで馬小屋かざり買えるかな」と言う要の想いを聞き、ひそかに第一アドベントには馬小屋かざりを共に準備できるように考えています。

穴水 祐介



家族に関わる その20

菅原 哲男

二年ほど経ってからだと思うが、夕食後の父親が、なんとということなく寛いでいた時、初めて児童相談所を訪れたときのことを話し出した。はじめに対応した職員の状態を今でも彼はかすかな痛みと共に打ちひしがれた思いになったことを思い出すという。その職員は「また馬鹿なことをした親たちがやってきた」という風な思いで自分に対応していたというのである。それは痛いほどはつきり感得されたというようにしてこんなところに来なければならなかったのか、もう止めよう、引き返そう、失敗した!と思つたという。お役所の一つでもある児童相談所は、手続きを進めていく。彼が止めると言い出してもそれは止められないものだった、といった。

福祉に関わる専門職のイロハのイなのだが、傾聴・共感・受容といわれるものがある。そのイが日常的なやりとりの中で摩擦していくのだ。

子どもの施設の利用者である子どもの父親や母親は、かなりの問題を背負ってやって来るのである。何が何だか分からないほど混乱した心理状況で…。そんな状況の家族と対応する時に

こそ、イロハのイが大切なのである。共感的傾聴、共感的受容、これは何度確認しても足りないことではない。

一の父親に対応した児童相談所の職員にとつては、毎日繰り返す来談者の一人に過ぎなかっただろう。その一人であるその人が、何年経っても忘れられないダメージを引きずっているのである。だから最初の対応は細心の注意が必要なのだ。一の父親は、もう何も期待しないし出来ない、どうでも好きなようにするがいい。まさしく絶望的な思いで行った児童相談所での何回目かに、優れたワーカーと出会った。まさに彼の言い方を借りれば「地獄に仏」だったという。

児童福祉にかかわらず社会福祉全般にわたって、それを利用しなければならなくなった人たちは、生きる希望さえ持てないような状態でやって来るものなのだ。最も困難を極める状態が窓口で手続きなどを始めるときなのである。いわゆるインテークワークの重要性はしつかり確認しておくべきだ。

光の子どもの家によってくる子どもとその家族は、まさに絶望そのものの状態でやって来る。この時の対応がそ

の後のほたらきをかなり決定づけることになる。だから、出来ればほんの少しでも「希望的」な状態をつくること

が出来たら上出来なのである。分度器の原点は零度であるが360度の可能性を持つているのだ。全てのはたらきの展開はその零度のところからどの方向に傾きをつくるのかが大切になることが認識されなければならない。

ともかく子育てはかなりの難事業なのであること。一人でやるよりは複数でするのが確実であること。重い荷物はその力を集めてすることがよいだろうことをゆつくりして確実に伝えよう。よくよく、騙されたと思つてしばらく様子を見よう。ということになった。そして、子どもがどんなところで寝起きしどんな人たちと暮らしていくのか気がかりだろうから、今日はゆつくり子どもと一緒にいてやってくれ、と頼んだ。父親はそれを受け入れた。そこで私たちがとの関係形成の緒はつくれたのである。

おやつ、夕食を一緒に食べ、しばらく子どもと一緒に寝たことなどないだろうから今夜は泊まっていくことをすすめる、家にいる奥さんに電話をして彼は宿泊してくれた。こうして一とその父親を中心とする家族との関わりが始められたのである。こんな入所が始まった一の光の子

現場から

続・光の子らしく

27

岩崎 まり子

冴え冴えとした星空、ぬくもりにありがたさを感じる、大好きな冬がやってきました。

皆様、お変わりありませんか。一年が間もなく終わろうとしているこの時期、自分で自分を誉めてあげられる人は、どのくらい居るのでしょうか。

私は、とても無理です。やらなければいけないことを数え上げながらも憎眠を食ったこと、苛立ちを人にぶつけたこと、子どもを傷つけてしまったあんな一言、こんな一言…。覚えておくことだけでも、ひどいものです。

過日も、好きなスポーツをあっさり諦めてしまいそうな現高校生



「どうして、いつもそうやって面倒臭いことから逃げるの?何で、ちょっと頑張れば諦めないで済むのに、すぐ諦めちゃうの?」

「そんなんじゃない。」「どうせ俺なんか。」「…。」

そのうち彼の反論もなくなつてしま、その時になって、やっと私は気がつくのです。

「また彼の諦めを増やしてしまった。私は、また、自分の取り消すことの出来ないマイナスをカウントしなければなりませんでした。」

彼は、いえ、彼らは、好き好んであきらめが良くなったわけではあり

ません。求めても望んでも背を向けられ、叶えられず、そのたびに自尊心を深く傷つけられ、狂うか諦めが良くなるか、そのどちらかしか

私のここでの働きの原点に幼い萌季の姿があります。入所の日、まさに「置いていかれる」というその瞬間、車に乗り込む母の拒否的な背中をなみり構わず泣きながら追いかけてようとする萌季。萌季は2才にして、一緒に泣くことしか出来ない私や、母や、自身の境遇やその他諸々、たくさんのかたちを瞬間にして諦めなければならなかったのです。

それでもやはり、私は願わずにはいられません。自分自身を諦めないで欲しい。自分の人生を他人のせいのように諦めて送って欲しくない。伝えたいことと言つてもいい。ことごと、微妙にズレてくる思春期。

もの家での生活は、だいたい順調に進んだが、落ち着いてくると出てくる投げやりな態度などの退行的な表現が見られるようになったのは半年から1年ほどが過ぎてからである。

一が生まれてから数年後に実母と父は離婚したが、共に暮らして子を為した者たちが離別するまでの経過を彼も伴走しながら育ったのである。当然暖かな関係よりは冷酷なやりとりが充満している生活の空間と時間だっただろうことが想像される。それがもたらす低い自我意識が底流になってそのような表現につながるものなのだろう。幼い頃の学習し足りなかった甘えや安定した関係などがその因と思われる。これが一にとつての、この後しばらくは自立を果たすまでの大きな課題なのである。

子どもの生活場面に家族を入れることが子どもたちの暮らしの質を高めることになることを、関係者はもう少し真剣に考えるべきだろう。家族の一員としての子どもだけが苦しんでいるのではないことを。家族を含めた難波を共に担い、共にはたらき合うことを、隣りながら急がないで試行していくのである。

今、馬小屋の生と十字架の死を受容したイエスの生涯を注視しよう!

「ごめんね。」

「いいよ。」

と言つてくれる子どもたちです。そのことに深く感謝します。と同時に許すしかない彼らと私との肩の位置のズレを切実に受け止め、出来ないながらも、そのズレを正すべく努力していきたく願います。

ここを出発していったあの子たちは、今、どこでクリスマスをお過ごししているのだろうか。誰か隣の人を見つけてくれたのだろうか。傍に居ても居なくても、あたたかな思いになれる関係を保持しているのだろうか。諦めていないだろうか。

私は、二〇〇七年前の羊飼いたちが抱える暗闇を理解することは出来ないし、同時にそんな彼らに与えられた「イエス様の誕生」という喜びも本当のところを理解することは出来ないと思つています。ですが、そのことは何か熱い勇気のようなものを私に与えてくれます。どうぞ、よいクリスマスを…。



日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 =

2007年6月1日▶8月末日

2007年 6月

幼児3名 小学生18名 中学生6名 高校生7名 措置外4名 計38名

- 2日 小さくても大バザー 後援会としづくの会の皆様に  
加え毎年ボランティアで手伝って下さる青山キリス  
ト教学生会の方が今年も溢れる若さで盛り上げて  
下さる 手伝わせていただいたと感謝を述べられる  
学生の方々に心からのお疲れ様も
- 9日 畑を無償で貸して下さっている小松さんの指導のも  
と小学生の子どもたちがジャガイモ掘り 沢山のジャ  
ガイモを抱え誇らしげな笑顔 感謝
- 20日 社会事業大学学生20名来訪し見学 これから専門職  
として働く彼らの活躍を祈って

<6月の物品ご寄贈者>

加藤操 黒川健一郎 宿原教会石川 小田原バプテスト伝  
道所 山口榮子 原安男 はむこ会土信田隆 市川美津子  
他多数の各位様

7月

- 3日 カリフォルニア大ディヴィス校より2名 日本文化  
を学ぶ夏の70日間の研修
- 10日 手打ちそば会 地元後援会の方々より美味しいうど  
んそばで心のこもったエールを頂く
- 20日 夏休みオープニングパーティ 待ちに待った夏休み  
をどう過ごすかひとり一人の抱負を発表 豊かな実  
りを得るための大切な儀式
- 24日~小学校低学年G 筑波山登山へ  
筑波高原キャンプ場での初めてのテント設営 山頂

の絶景とバーベキューそしてテントで過ごした夜の  
楽しい思い出

28日~小学校高学年G はむこ会様からの招待で鹿島へ  
<7月の物品ご寄贈者>

比企 小泉三智子 竹内(阿久利)商会 武川民子 松本明子  
岡本宣 他多数の各位様

8月

- 2日~教会学校小学科夏期学校 信州バイブルキャンプ場へ
- 5日~竹花家と他家の子どもたちが佐渡が島へ  
池田源一郎様のご厚意で佐渡行きのお話を頂き(前号  
に詳細)七泊八日の長い間佐渡が島を大佐渡 国仲  
小佐渡と満喫 お世話になった多くの方々に重ね重ね  
の感謝

13日~佐藤家と他家の子どもが秋田へ

19日~教会学校中高科夏期学校 アジア学院へ

- 30日 元光の子どもの家理事長 福島勲先生のご長男で写真  
家として第一線でご活躍されている福島力様来訪 昨  
年に続き子どもたちの思い出にとポートレートを撮影  
して下さる  
夏休みさよならパーティ いよいよ過ぎ行く夏休みに  
自身の成長と楽しい思い出を確かめ合い皆で楽しく2  
007年夏の最後の思い出を

<8月の物品ご寄贈者>

白石澄雄 木暮伸二 松本明子 斉藤康光 他多数の各位様  
☆夏の間だけでもこんなに多数の方々にお世話になっており  
ます。子どもたちの成長につながるよう大切に日々を歩んでおり  
ます。感謝&メリークリスマス☆(くら)

/// ———— 反 射 光 ———— ///

☆季節外れの台風もあつた今年の秋  
が過ぎていよいよ冬の深まりを感じ  
る朝を迎えています☆ここを巣立っ  
ていった卒園生たちが社会に出て抱  
える様々な悩みや問題の深さに驚か  
されていきます☆私たちの役割は一体  
何なのだろうか☆自問自答の日々に  
なんとか活路を見出すべく年度前に  
策定した自立支援計画の見直しをし  
ております☆去る十一月三日にご支  
援賜っている皆様をご招待し「感謝  
の集い」を催しました☆全国から多  
数の方々にお集まり頂き心から感謝  
申し上げます☆相も変わらず社会を  
取り上げるニュース番組は暗い顔と  
作り笑いの顔が大半を占めておりま  
す☆幼い子どもたちの顔には笑顔が  
溢れておりますが少しづつ社会に触  
れていく機会が増えるにつれてニュ  
ース番組によく見られる表情が増え  
ていくのは必然でしょうか☆こんな  
社会でも中高生が自身の明日への希  
望を抱く強い心を持てるように祈る  
ばかりです☆私たちの働きが神さま  
によって益とされますように☆今後  
ともご理解とご支援を宜しくお願  
いします☆メリークリスマス☆(洋)